

飯能西中だより



天覧山 8月号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和3年度 第5号
令和3年8月25日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

皆様に支えられ 飯能西中学校は今年50周年の節目を迎えます。

命を輝かすとは・・・

校長 中村 公一

今年の盂蘭盆会は前線の影響で雨天続きだったため気温も低く過ごしやすい日が続いていましたが、ここに来てまるで二度目の梅雨明けを迎えたかのような厳しい残暑を迎えています。先日の大雨では全国各地で被害が発生しました。被害に遭われた方や大切なご家族を亡くされた方に対して心からお悔やみを申しあげたいと思います。また、この一ヶ月の間に新型コロナウイルス感染症の感染拡大が進み、私たちの置かれている環境は明らかに夏休み前とは違う物になったと言わなければなりません。特に医療機関は新型コロナウイルス感染症の患者をこれ以上受け入れることが出来なくなっており、満足な治療を受けられずに亡くなってしまう人が出ている状況にあることから、感染者を出すリスクを極力減らしていかなければなりません。今、感染の主流となっているデルタ株は感染力が非常に強く、マスクや手洗いで無く、十分な換気を行っていないと感染しやすいと言われており、これまでの対策では不十分と感じられる場面も見受けられます。今日から2学期が始まるわけですが、学校としましては各教室に換気用の扇風機を新たに購入するなど、考えられる様々な対策を講じて参りますので、ご家庭におきましてもこれらの感染対策を十分に行っていただくとともに、風邪症状のような体調変化があった場合には登校を避けるようご協力願います。

さて、この一ヶ月を振り返ってみると、オリンピックの開催、日航機墜落事故の慰霊、広島・長崎の原爆の日や終戦記念日など、私たちの考え方や生き方を改めて問い直したり、考え直したりする機会がたくさんありました。生徒の皆さんにもじっくりと考えてもらいたいことがいろいろあります。

まずコロナ禍の中、無観客で開催されたオリンピックについてですが、様々な制約の中で力の限り競技に挑んだ各国の選手や、開催に反対する声や感染不安が大きい中で覚悟を決めて大会の運営に携わったスタッフやボランティアの皆さんに対しては、感動的な場面や心温まるエピソードを貰えたという賞賛の声が多く聞かれたことが何よりだったと思います。特に今回のオリンピックでは、ジェンダーやLGBTQなどの問題、SNSでの誹謗中傷など選手の権利の問題、五輪の政治的・商業的利用の問題など様々な問題が浮き彫りになっただけでなく、男女混合の競技が増えるなど男女共同参画社会に向けたチャレンジや、新たな種目でのティーンエイジャーの活躍などが見られ、未来の希望に向けての大きな布石となったことは間違いないと思うのです。しかしながら、政府や五輪を運営する責任者からは、五輪を開催しなければならない理由であるとか、私たちが抱えていた感染拡大の不安に対する安心安全への説明が十分な根拠をもってなされたとは考えにくく、一連の報道を見ていた中学生の皆さんにとっては、ずるい大人の一面を垣間見たように感じられたのではないのでしょうか。これは単に政府や五輪の組織委員会が悪いと言っているものではありません。このような社会を創ってしまった原因は私たち大人全員にあるのではないかと思うからです。総理大臣の言葉を借りるなら「社会を批判し背を向けることは一番簡単なこと、楽なこと。社会の現実に向き合いこれをよくするために挑戦することが国民の役割だ」と言えるかもしれません。今起きていることを自分事として反省し、一人一人に出来ること、一人一人がやるべきことをしなければ、子どもたちに希望を与えることが出来ないと思うのです。

次に戦争や平和への向き合い方についてです。毎年、終戦記念日や原爆の



飯能市立博物館では、「ヒロシマ・ナガサキ原爆資料展」が開催されています。(9/5迄)

日を迎えるこの時期になると、新聞やテレビなどで平和について考える特集が組まれたり、博物館や資料館などの施設で催し物が開かれます。このような機会に戦争や平和のことについて考えるのはとても大切なことなのですが、こういった取り組みが形式的なものになってしまっていないでしょうか。76年前、熊谷市では終戦当日の空襲で多くの方が亡くなりましたし、その前々日には関東よりもずっと内陸にある長野でも空襲があり多くの方が亡くなっています。「国益を守るため」「国民を守るため」という理由で戦争を始めたものの、最終的には国益どころか国民さえも守れなかったという事実と向き合わなければいけません。先月の学校便りで紹介した「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」汐見夏衛・著（スターツ出版）は太平洋戦争の特攻隊員と現代の中学生の時を超えた恋愛の物語ですが、作品の中では当時の生活の様子や国民に戦争遂行を強いる理不尽さがうまく描かれています。作者の汐見夏衛さんは鹿児島県の出身なのですが、小学生のころ学校行事で訪れた知覧特攻平和会館で衝撃を受けたことがこの作品を書くきっかけになったそうです。このように形は違っても平和を守るために一人一人が今何をしているか自信を持って答えられる世の中にしなければいけないのだと思います。

右のコラム欄に紹介した言葉は36年前にあった日航機墜落事故で遭難し、26歳で亡くなった田中愛子さんの絶筆です。田中さんは当時、神戸にある私立の中・高等学校で体育講師をしていました。同じ教員として、きっと子どもたちに向ける熱い思いがあったことでしょう。今、生きている私たち。今、光ることができる私たちにできることは目の前にある事から逃げず、目をそらさずに頑張ることです。これは生徒の皆さんにとっても私たち教職員にとっても同じように大切な事ではないでしょうか。命を輝かすとはそういうことなのだと思います。

人の命には限りがある。…
だからこそ自分の思うように生きたい
人は軽く10年先20年先を口にするけれど
そのときを大切にしなければ…
今 光っていたい。

娘の遺してくれたもの 田中蔚
「感性に問う人権啓発」明石書店より

新型コロナウイルス対策は新しい局面を迎えました

生徒の皆さんへ

新学期を迎えるに当たり皆さんにお願いがあります。これまでとは違い小中学生の感染者が急激に増えており、子供が原因の家庭内感染が広がっています。小中学生の場合には感染しても症状が軽く気付かない場合があるため、最悪の場合、皆さんを介して家族全員が感染してしまう恐れもあるのです。ですから、学校にウイルスを持ち込まないことと、学校からウイルスを持ち帰らないことを徹底するために、手洗い、マスク、換気、距離の4つについて、もう一度厳しく見直して欲しいのです。デルタ株はこれまでのアルファ株よりも遙かに感染しやすいそうです。皆さんにも家族を守るための行動をしてもらわなければなりません。今後、生徒の中で感染者が増えた場合には急遽リモート授業に切り替わることがあり得ますし、先生が感染して療養に入る場合には自習をしてもらわざるをえない状況もあり得ます。再び様々な行事が中止になってしまい本当に申し訳ないのですが皆さんの力を貸してください。

夏に輝いた西中生

この夏、部活動等に関する各種大会やコンクールが実施され、学校総合体育大会の県大会には、本校から野球部、ソフトボール部、陸上部、卓球部、剣道部が出場しました。野球部は準決勝、ソフトボール部は準々決勝まで進出するなどの成果を収めました。文化部においても、吹奏楽部が吹奏楽コンクール西部地区大会Bの部で銅賞を受賞したほか、美術部は中央公民館で開催した美術展に数々の作品を出展し多くの方に見ていただくことが出来ました。また、本校の生徒が参加している飯能のジュニアホッケーチームも関東大会では4位となり全国大会まで駒を進めました。夏休み中に活動が始まった新チームも応援したいと思います。



体育祭の実施見合わせ及び合唱祭の中止について

現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が止まらず、医療も逼迫しており、これに感染した場合には十分な治療が受けられない恐れがあります。本市におきましては感染防止等を徹底するため、今年度の体育祭を実施見合わせとし、合唱祭は中止することとなりました。詳細につきましては本日、別刷りの資料を配布いたしました。先月からこれらの行事に向けた準備が始まっており、携わっている生徒の皆さんには本当に申しわけないという気持ちしかありません。体育祭の代替等については今後の状況を見守りながら再検討することとさせていただきます。